

厳しいたたかい「負けられない！」



全日本自治団体労働組合
北海道本部
〒060-0806 札幌市北区
北6西7北海道自治労会館
電話 011-747-3211
FAX 011-700-2053
編集・発行 谷川 広美

今後の日本の行方、憲法改正を左右する大切な「参議院議員選挙」が公示された。情勢は厳しく深刻である。他人ごとではなく自分のことなのである。もしも、もしも北海道選挙区の「小川の議席」がなくなり、比例の自治労組織内

朝風

議員「あいはらの」議席を失ったら想像したくないが、しっかりと想像して、その悪夢がこないように一人ひとりが、決めたことをしっかりとやるしかない。昨年末北海道の議席を失う経験をして何が起きたか？答えは明確である。

小川・あいはら 第一声

かつてない厳しいたたかいとなる、第23回参議院議員選挙が7月4日公示され、17日間の選挙戦に突入した。自治労道本部は、推薦決定している小川勝也(北海道選挙区)と、自治労組織内・あいはらくみこ(比例代表)の再選をめざし組織の存亡をかけた総力をあげる。(2面アピール参照)



昨年12月の衆議院総選挙で圧倒的多数の議席を得た自民党安倍政権は、経済政策中心の施策を打ち出しているが、国民の多くは、その効果を実感していない。地方交付税の削減、公務員人件費の削減、労働法制の規制緩和や、96条改正を突破口に一気に憲法改正を議論するなど、私たちの生活を脅かしている。今回の選挙はまさに暮らしを守る負けられないたたかいだ。自治労全組合員が、一丸となって何としても、参議院議員選挙必勝にむけ全力で取り組もう。4日「小川勝也」候補は、「私たちのふるさとの北海道を守り、安倍政権の暴走をとめるたたかい。誰もが安心して暮らせる元気な北海道をつくる」と決意を述べた。また、東京・自治労会館前で第一声を上げた「あいはらくみこ」候補は「この国の将来がかかっている正念場の選挙だ。自民党政権で、もてはやされているアベノミクスは、決して労働者の目線ではないと全国で訴えていく。安心して働き

暮らすことのできる社会をめざし、選挙戦をたたかいぬく」と決意を述べた。支援を訴え出した。自治労組織内「あいはらくみこ」

国政にチャレンジ！ あいはらくみこ奮闘記 ③

格差解消！ 2度目の挑戦



国会で非正規問題を訴えるあいはら参議

公共サービスの最前線で働く自治労の仲間を代表として、国会で働く「あいはらくみこ」さんの議員活動も早6年。自身のスタートでもある地方公務員の非正規職員の処遇改善、雇用の安定にむけて当選直後から取り組みを開始した。

しかし国会では、公務労働の場における非正規労働、いわゆる「官製ワーキングプア」問題が取り上げられてこなかった。現実には直面する。まずは、この課題を解消しようとする国会議員を一人でも増やす、課題の共有化という基礎づくりから始まった。党内での学習会づくりにから議員連盟を立ち上げ、民主党政権時には「民主党地方自治体臨時・非常勤職員問題ワーキングチーム」の事務局長として地方自治法改正による非常勤職員の諸手当支給を可能とするための法案を起草。地道な取り組みが功を奏し、地方自治法改正案は今年5月に野党6党共同提案で参議院に提出、審議入りするに至る。しかし、残念ながら国会閉会に伴い、悔し涙を飲むこととなった。

もちろん、ここであきらめる「あいはら」さんではない。全力で取り組んできた、格差社会の解消、均等待遇の実現、公共サービスの拡充、平和な社会の実現をさらに確実に前進させるため、今夏の参議院選挙で2度目の挑戦を決意。力をあわせて暮らしを守る、政治を前に進めていくためのたたかいに挑む！

「想像したくないが、しっかりと想像して、その悪夢がこないように一人ひとりが、決めたことをしっかりとやるしかない。昨年末北海道の議席を失う経験をして何が起きたか？答えは明確である。」

いざ出陣!! 参院選

集会で小川勝也さんは、「北海道や道民が犠牲にならないよう、とことん北海道にこだわる政治家になる」と力強く決意を述べた。



1500人が集った「7.3小川勝也総決起集会」=7月3日、札幌市民ホール

JICHIRO スケジュール

- 7月
- 11日(木) 胆振・日高地本合同集会(苫小牧市)
- 16日(火) 第24回執行委員会(札幌市)
- 21日(日) 第23回参議院議員選挙投票日
- 23日(火) 第25回執行委員会(札幌市)
- 28日(日) 被爆68周年原水禁世界大会・福島大会(福島市)
- 29日(月) 自治労共済第119回通常総代会(東京)
- 31日(水) 北海道全労済第60回通常総代会(札幌市)

道本部ホームページ

自治労北海道 ユーザー名:hokkaido
組合員専用ページは パスワード:jichi2009

自治労道本部は、あいはらくみこさんと小川勝也さんを推せんしています

自治労道本部推せん参議院議員北海道選挙区

小川勝也

あいはらくみこ

暮らしを守る力になる

オフィシャルウェブサイト
http://osawa-k.net facebook

オフィシャルウェブサイト
http://aikumi.info/ facebook

自治労北海道

ホームページに左記の新しい画像をUPしました。

「あいはらくみこ」・「小川勝也」の情報を 見る事ができます。

スマホでアクセス!

情勢は危機的！ 全組合員の総決起を心から訴える！！

—参院選公示に当たってのアピール—

7月4日、第23回参議院議員選挙が公示された。今回の参院選は、かつてない厳しい環境でのたたかいである。安倍政権による財界・富豪むけの経済成長第一で、労働者保護や脱原発などをかなぐり捨てる政策方向や、国家主義的な歴史観や憲法改悪などへの疑問・警戒は、決して小さくない。しかし、世論調査や東京都議選の結果が示すように、対抗勢力の中核であるはずの民主党は、いまだに国民の信頼を取り戻せておらず、結果として自民党一党の絶対優位という情勢を許している。

現状の選挙情勢を明らかにしながら、あらためて、北海道選挙区「小川勝也」、比例代表「あいはらくみこ」の両候補必勝にむけた、全組合員の総決起を呼びかける。

北海道選挙区(定数2)は、民主党現職の「小川勝也」が議席をしっかりと守れるかが焦点である。現状では自民現職が盤石の独走態勢にあり、「小川」は反TPPで保守票狙いの大地・新人、民主への幻滅の不満票を狙うみんな・新人、反自民の受け皿をアピールする共産・新人の3人の猛追を受け、激しく追い上げられている。しかも3新人は自民の当選を前提に、残りの一議席狙いのために民主党批判を強めており、予断を許さない状態にある。

比例代表(改選48議席—前回2010年は民主党16議席)は、民主党は20人が立候補(うち連合の産別候補は9人)しているが、現状では獲得議席は前回の3分の1の5議席程度と見られている。前回、自治労のえさきたかしは民主党の中で10位、連合候補の中でも8位での当選だった。しかも今回の北海道段階の支持者獲得状況は、前回の半分という実態で完全に出遅れている。つまり情勢は一変しており、前回の感覚と現状の取り組みでは「あいはらくみこ」の再選は本当に危機的なのである。この情勢認識を全組合員で共有しよう。組合員と家族が「個人名投票」の意義をしっかりと理解し、各単組の得票目標達成のための支持定着と参院選勝利にむけ、全力をあげなければならない。

今回の参院選の最大課題は、「安倍政権の暴走を何としても食い止める」「そのためにも働く者の政治勢力・議席を守り抜く」ことである。そしてわれわれ自治労にとっては、地方交付税・地公給与を国が勝手に削減するような政治をやめさせるたたかいである。参議院で「小川」「あいはらくみこ」の議席を失うことは、公共サービスと働く者の労働条件を切り下げ、地方切り捨てと貧困・格差の拡大、TPP参加による北海道経済と国民生活の崩壊、原発依存復活と憲法改悪への道を許すことであり、絶対にあってはならないことである。

全組合員が、家族、知友人への、北海道選挙区「小川勝也」、比例代表「あいはらくみこ」の徹底を進めよう。追い風はまったくくない。自分たちで確実に積み上げることがすべてであり、今こそ組織力が問われる。悔いのない17日間の取り組みに総決起しよう！

2013年7月4日

自治労北海道本部
執行委員長 山上 潔

「参院選の意義」を学習



職場だより

【留萌地本発】 苫前町職では、6月20日に政治学習会を開き11人が参加した。

学習会は道本部・大島組織部長が「参議院選挙の意義」をテーマに、なぜ自治労が政治闘争をするのかを学習しました。

【留萌地本発】 苫前町職と、賃金・労働条件は、最終的に議会の議決で決められるため、私たちの声を聞き生かす議員を増やすことが重要。また、三位一体改革で削減された地方交付税が民主党政権で回復し、多くの単組で独自削減を終了してきたこと。自民党政権に交代以降は、再び地方交付税

を削減し人件費の削減を請うた。今後も自民党の政権公約に合わせあり得ること。憲法にある国民の権利は、歴史上、戦争に苦しんだ市民が長年の努力で、国家に戦争をさせないために獲得してきたものであること。これら日常的に、とっつきにくい政治闘争の話を、



11人が参加した政治学習会=6月20日、苫前町

チャレンジ! チルドレン・ファースト②

国会に意見届けるには、「あいはら」!



国の「子ども・子育て会議」は7月5日に4回目が開かれ、6月28日に2回目となる基準検討部会が開催されるなど、子ども・子育て新制度の詳細を取りまとめる議論が急ピッチで進んでいます。思い起こせば「子ども・子育て新システム」と呼ばれていた頃の検討会議でも、各委員から出された多くの前向き発言を取り入れたうえで法案提出に至ったにも関わらず、審議過程では自民、公明との修正協議により「社会全体で」子育てを保障するという理念が変更されました。第一の責任は「親」にあるとし、名称も「総合子ども園」という名称もが気に入らないから採用しないなど、いくらか当事者の声を取り入れたいとしても結局は政治に左右されてしまうことを思い知らされました。「子ども・子育て会議」への意見反映も重要ですが、国会に対してもしっかりとわれわれの意見を届けるため「あいはらくみこ」さんに、まだ働いてもらう必要があります。

忙中余話

民主党政権 翻って、今の自民党政権、あからさまな大企業・大都市富裕層優先政策を進めている。小泉政権時代にも同様の政策を行ったが、貧困・格差が拡大し、社会の混乱をもたらしたことは、社会実験済である。参院選後は、解雇規制の緩和、さらなる地方交付税の削減、生活保護の引き下げなどが検討される。とある霞が関官僚は、「今回の選挙で政治の力が偏ると、地方は大変なことになる」と危惧を抱く。この選挙、北海道を守るたたかいでもある。(自治労本部・平川則男)

あいくみの国会だより②

パワー全開
たたかいに挑む



いよいよ7月4日を重される社会をみなさんを迎えることになりました。この6年間、格差社会の是正、均等待遇の実現、公共サービスの拡充、平和な社会の実現にむけ、全力で取り組んできました。しかし、抱えきれない「元氣をいいただきました。そして今、政治の右傾化や、労働者、市民生活を踏みにじる政権の横暴をこのまま許すわけにはいきません。こんな時代だからこそ、一人ひとりがその多様性を認め合い、尊